



とよとみひでよし かたながり  
**豊臣秀吉は、なぜ検地や刀狩をしたの**



農民を土地にしばりつけ、武士に反抗しない、おとなしく年貢米を納める道具にするためだよ。

**年貢米を納める人を、はっきりさせた検地**

豊臣秀吉が行った太閤検地は、全国的に同じ基準を定めて、田畑の広さを測り、そこから米がどれくらいとれるかを調べ、田畑に上・中・下の等級をつけました。さらに、その田畑の持ち主の名前も、検地帳に書きこみました。たとえば、「上田 もりまえ 八畝二十巻歩 巻石四斗三升六合 孫太郎」などと書きました。このようにして、年貢米を納めなければならない者がだれかを、はっきりさせたのです。

**民衆から武器を取り上げた刀狩**

刀狩は、武士の支配に対して、民衆が武力で反抗するのを防ぐため、武士以外の人々から、刀・やり・鉄砲などの武器を取り上げるものです。当事の戦国大名たちは、一揆との戦いで、苦戦することが多かったのです。秀吉も、織田信長の部将として、一揆と戦い、結集した農民の戦う力の強さを、経験していたのです。

**戦う力が弱まった農民は、年貢米を納める道具にされた**

刀狩によって、武器をうばわれた農民は、武士と戦う力が弱まりました。さらに、検地によって、土地に固くしばりつけられることに、なってしまいました。農民は、「おとなしく年貢米を納める道具」にされてしまったのです。江戸時代にも、たくさんの一揆が起りましたが、農民がもつことのできた武器は、竹やりや、くわ・かまなどの農具でした。

田畑の持ち主の顔の特ちょうを書いた検知帳もあるそうよ。

